

申請書の提出期限繰り上げ 毎月6日までに

10月の理事会で、療養費支給申請書の提出期限が平成31年4月(3月施術分)より7日から1日短い6日に繰り上げられることに決まった。変更の理由は、協会けんぽ(全国健康保険協会)愛知県支部による強い申し入れによるものだ。協会けんぽは柔整療養費の提出期限をもともと毎月10日としていたが、本会に限っては内部審査体制や組織的メリットなどを考慮し、11日提出でよいとされていた。しかし近年、協

会けんぽは申請書のデータ入力を外注するようになり、遅れての提出はその作業に支障をきたすため、去年から再三10日の締め切りに変更してほしいと依頼されていた。10日に間に合わせるためには事前の内容点検を前倒しする必要がある、そのためには少なくとも本会への提出期限を1日繰り上げざるを得ない。会員に迷惑がかかるし業務全体にも影響があるので変更を固辞していたが、このたびさらに強い要請があり協力していくこととなった。ご理解ご協力をお願いします。

柔道整復師の歴史を探る

第26回日整学術・生涯学習講習会



10月6日(日)午後1時から4時20分過ぎまで、日整会館にて全国の会員ら110名が参加して、第26回日整学術・生涯学習講習会が開催され、去年に引き続き長谷川本会副会長(日整学術教育部員)が司会進行を務めた。本会からは日整代議員ら8名が参加した。午後1時10分より特別公演(公開講座)として「柔道整復師の歴史を探る」と題し、帝京平成大学ヒューマンケア学部柔道整復学科助教、博士(スポーツ科学)の湯浅有希子先生が登壇された。

柔道整復師の資格を持つ湯浅先生は、柔道整復の成り立ちにつき独学で研究を始められた。前半は天神真楊流(てんじんしんようりゅう)柔術を起源とする江戸時代の接骨の流れや、接骨が消滅の危機に晒された明治・大正時代の「接骨」から「柔道整復」への転換、徒弟制度のみで技術が伝承され基礎医学の知識も欠如していることを理由としたGHQによる2度目の抹殺の危機に対抗して学校制度を法制化した戦後の対策などを紹介された。後半は単独法の制定、国家試験への移行の経緯などについて詳述し、最後に会員に対し歴史的資料の提供を依頼されて講演を締めくくられた。

2時20分からは、本会の高須周平会員(刈谷)が中心となって研究開発した骨模型シミュレータの開発経緯が紹介され、整復ができない柔道整復師が増えて本来の柔整業務が認知されなくなった昨今、われわれの技術を守り将来に継承していくための手段として活用できると紹介し、シミュレータを使って骨折・脱臼の発生機序や肩関節脱臼やコーレス骨折の整復操作を提示した。



3時20分からは、特別セミナーとして「柔道整復師の骨折・脱臼の施術」を、富永敬二日整渉外部長が講演。写真や動画を使い手指関節や肘関節・肩関節・顎関節の脱臼、前腕両骨や橈骨下端部の骨折の整復を解説し、その後モデルを使い実際に整復手技と固定を紹介された。

4時から学術教育部報告として長尾淳彦学術教育部長より、全国11ブロックの平成31年度と32年度の学術大会隔年開催の状況などについて説明と報告が行われた。また森川伸治保険部長から審査会の権限強化についての進捗状況が紹介された。

防災ボランティアのためのこころのケア研修 (事業部 河合一弘)

午前、午後にもわたる研修は、我々が普段患者さんと接する際にも参考となる、とても有意義なものであった。援助する側のこころのケアについての必要性も感じた。



加藤信子 日赤救護・事業推進課長と

10月14日(日)、日本赤十字社愛知県支部において「防災ボランティアのためのこころのケア研修」が行われ、小林事業部長、石川部員と共に参加した。我々を含め県下の各奉仕団より24名が出席した。この研修は、「被災者にきめ細やかなこころのケアを提供できるように、自己管理を含めた対処方法を防災ボランティアが習得すること」を目的とする。こころのケアの必要性を理解するという講義の中で「被災された方々が示す反応は、異常な出来事に対する正常な反応」という言葉が印象に残った。また被災された方々への接し方として、避難生活が及ぼす影響や、子供や高齢者など特別な配慮を要する方への接し方も学び、また防災ボランティア自身の安全と健康管理の講義もあり、援助する側のこころのケアについての必要性も感じた。

高段者大会初開催 愛知選手好成績をおさめる

10月7日(日)、講道館にて日整主催の4つの全国柔道大会が開催された。本会からは役員10名と一般会員6名が応援に駆け付け、審判員として石田雅明会員(鶴舞)が参加した。

第42回厚生労働大臣旗争奪日整全国柔道大会
第27回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会
第8回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道形競技会
平成30年全国柔道整復師高段者大会

8時30分から7階大道場で行なわれた少年大会の開会式では、工藤鉄男日整会長や来賓の挨拶ののち、前年優勝の愛知県チームと準優勝の岐阜県チームがそれぞれ、優勝・準優勝カップを返還しレプリカを受け取った。また前年優勝チームとして愛知県から名郷颯馬選手(6年生・稲沢)が元気よく気持ちこもったすばらしい宣誓を行い、日整全国少年柔道大会の火ぶたが切られた。



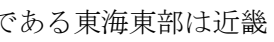
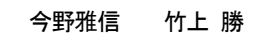
愛知県チームは、第2会場で2回戦から出場し徳島県と対戦。次鋒が負けたものの先鋒と副将・大将が勝ち3対1で圧勝。続く3回戦は、運命のいたずらか、昨年決勝で戦った岐阜県と早くも対戦することとなった。先鋒と中堅は引き分けたものの、次鋒と副将が負けを喫し、大将が横四方固で一矢報いたが、惜しくも1対2で涙を飲んだ。

9時30分からは6階国際部道場で、高段者大会が初めて開催された。この大会は勝ちで1、引分で0.5の昇段ポイントが与えられる。愛知県からは会員4名と米田柔整専門学校教員(本会推薦)1名が出場し、1試合のみであったがみんな真剣に戦った。会員4名のうち3名が勝利し1名が引分けるなど好成績をおさめた。

高段者大会出場者(敬称略)



黒氏 憲 加藤勇雄



今野雅信 竹上 勝

12時30分より日整全国柔道大会の初戦が6階にて開催された。愛知と静岡の合同チームである東海東部は近畿チームと対戦。善戦するも1敗4引分と惜敗した。準々決勝(2回戦)からは7階大道場に場所を移し決勝までが行われ、東海東部を破った近畿が北信越西部を3対2で破り優勝。東海東部と近畿との初戦が実質上の決勝だったかもしれないと、多くの応援者は残念がった。

午後1時、日整少年柔道形競技会予選が7階大道場で、28チームが4会場に分かれ行われた。愛知県チームは第一試合場Aブロックに出場。神奈川県チームに僅差で敗れ決勝へ進むことができなかった。愛知県チームは二人とも小学4年生なので、さらなる飛躍と活躍を期待する。

Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
中西良英	H2.3.6	中村	米田柔整	—	車・野球
片山達朗	H4.3.30	一宮	甲賀健康医療	—	読書



中西良英会員(左)兄の結婚式で親戚と撮った1枚。

片山達朗会員

snapshot